

### 普及活動検討会実施報告書

亙理農業改良普及センター

実施月日：令和5年1月27日

実施場所：亙理農業改良普及センター会議室

#### 1 検討内容

No	検討項目
1	令和4年度プロジェクト課題の実施状況について ① 新たな品目・技術導入による土地利用型法人の経営発展 ② 次代を担ういちご生産者の環境制御技術等の習得による生産性向上 ③ 担い手育成と果樹優良品種導入による果樹産地の維持発展 ④ 新たな取組の定着による持続可能なカーネーション産地の実現
2	令和5年度普及指導計画（案）について

#### 2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	1	生活者	
若手・女性農業者	1	学識経験者	
市町村	4	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	1

#### 3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント，評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
検討課題1 （新たな品目・技術導入による土地利用型法人の経営発展）について	4.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>品目ごとの分析により，必要面積や必要収量を出して目標設定と計画をつくってほしい。</li> <li>様々な取組がなされていて色々大変なこともあると思う。きちんと収入につながるか費用対効果も考え，継続の判断をきちんと考えることも必要と考える。</li> <li>土地利用型農業のモデルケースによる売上高確保の取組は，一定の成果を上げています。</li> <li>来期，「ぶどう」は過熟防止のため品目間での作業時期・量調整，「加工用ばれいしょ」は適期作業の実施や排水対策強化，「水稻乾田直播栽培」は施肥量の削減効果のある転作水稻品種の選定により課題を解決し，より具体のスケジュールや技術対策での支援により売上高等の確保向上，経費・労力軽減の支援を期待します。</li> <li>法人が、農業経営の視点を持った組織運営の改善や新品目を利用しての体制強化に取り組んだことは、法人のニーズ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>品目ごとの経営分析は大変重要と考えております。新たに取り組んでいる「水稻育苗用ハウスを利用したぶどう」，「加工用ばれいしょ」，「水稻乾田直播栽培」の収量や売上の向上に向けて，支援していきます。</li> <li>これらの新たな取組が法人経営にあたえる効果を，専門家の助言も受けながら，実績に基づいて分析したうえで，中長期計画という形で今後の見通しを立てられるように，また，今後の土地利用型農業を営む経営体のモデルになるよう，支援していきます。</li> </ul>

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
		<p>と内容を良く捉えており、大きく評価できる。今後は、経営改善の内容の精査と共に、効果の評価を行い、他の法人にも展開されることを期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・背景・課題を踏まえ、各法人の状況に応じた支援活動が行われた結果、ぶどうでは前年の売上高を上回るなど成果も伴っており、今後に繋がる活動を展開されたと考えます。</li> <li>・ぶどうの売上高が前年対比 215%は、技術支援の成果であり評価できると思いましたが。ただ販売出来なかったぶどうの量がどの程度か少し気になりました。</li> <li>・ばれいしょ栽培における、来年度の排水対策の方法に興味を感じました。</li> <li>・農事組合法人志賀について、品目間の作業調整の課題があったものの、ぶどうの収量・販売高が前年を大きく上回った点は、今後の技術定着支援のはずみになると思います。</li> <li>・長岡グリーンサポートのばれいしょについては、まだ栽培2年目ということで耕作地の排水対策が当初から課題となっていたものの、一定の成果はありましたので、今後の支援を引き続きお願いいたします。</li> <li>・法人運営体制強化支援として、中小企業診断士を派遣しながら財務分析を行い、現状の「見える化」を踏まえた新品目の技術定着支援等により目標達成に向けた取り組みを実施しており、素晴らしいと感じました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水田転作の加工用ばれいしょ栽培においては、排水対策が最大の技術的課題となっておりますが、試験研究機関と密に連携しながら単収向上に向けて支援していきます。</li> </ul>
<p>検討課題2 (次代を担ういちご生産者の環境制御技術等の習得による生産性向上)について</p>	<p>4.4</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標達成のための課題整理が高評価。月別収量なども比較して労働時間も加えた型で、最適化してほしい。</li> <li>・一大産地となっているいちごの技術・生産性向上の取組はとても大切だと思う。コストをかけず、環境負荷を抑えた栽培に向けますます頑張してほしい。</li> <li>・栽培経験の少ない「いちご生産者」に対する指導等の取組は、成果を上げています。来期も、巡回指導や勉強会・講習会の開催により、栽培技術向上や生産者間の交流支援を通じ、県内一の園芸産地の地域ブランドである『いちご産地』の維持・向上を期待します。</li> <li>・次世代の生産者に対する、技術向上と生産者間での交流が</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月別の収量は労働時間に関わってきますので、収穫で忙し過ぎる月、忙しくない月の差が大きくなるような栽培を確立することを意識して活動したいと思います。</li> <li>・今後もコストを抑えつつ最適な栽培に向けて継続して活動します。</li> <li>・今後も巡回指導や勉強会の開催によっていちご産地の維持・発展を目指して活動します。</li> <li>・いちご栽培経験の少ない生産者は毎年作の振り返りを実</li> </ul>

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
		<p>できる環境を構築できたことは、次世代だけでなく同じ生産者全体に影響を与えることができる点で、大きく評価できる。今後さらなる活動が、地域の高品質化につながることを期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・後継者へのスムーズな経営移行は、大変重要だと考えます。勉強会・講習会を通じた生産者間の情報交換は、有意義であると思いますので今後も継続してほしいと思います。</li> <li>・プロジェクトを通じて生産者の技術向上が図られたほか、生産者間の情報交換の機会も創出していることなどから、次代を担ういちご生産者の育成に寄与していると考えます。</li> <li>・いちご生産者に対する活動で振り返りの実施による課題点の整理、夜冷処理と無夜冷の違いによる生産者自身による作業計画立案、環境制御向上に向けたデータ活用の実践など、多くの活動支援の成果があらわれたのではないのでしょうか。</li> <li>・育苗時の肥培管理改善や病虫害防除に関する勉強会の開催によって地域を担う若手生産者や後継者の知識習得にも繋がっており、定量的・定性的な目標も達成されていることから、今後も継続的な支援をお願いしたい。</li> </ul>	<p>施し、課題を整理することが重要と考えておりますので今後も継続して支援していきます。</p> <p>・いちご栽培は育苗時の病虫害防除が非常に重要ですので今後も更なる技術向上に向けて支援していきます。</p>
<p>検討課題 3 （担い手育成と果樹優良品種導入による果樹産地の維持発展）について</p>	<p>4.2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産地として発展してほしいが、参入するにあたってボトルネックの整理も必要になる。対象者を増やしてはどうか。</li> <li>・いちごだけでなく、果樹の適地として、りんごやぶどうの栽培に取り組む担い手が増えることを願う。技術の指導だけでなく、販路をつけることも大事と考える。</li> <li>・果樹産地の維持発展の取組は、一定の成果を上げています。技術勉強会、現地研修会、販売会等を通じ、果樹経営の意欲醸成の促進に繋がっています。今後も、引き続き勉強会や販売会、補助事業周知により維持発展の支援を期待します。</li> <li>・産地の担い手育成は、農業全体の課題であり、対象の選定は評価できる。今後は、りんご・ぶどうの出荷時期などに合わせた、産地・関連商品のPR活動を活発に行うことで、若手生産者の更なる意識向上に繋がると考えられる。（6</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題対象者は計画期間中変更できないため、御意見として承ります。</li> <li>・販路については、各戸に得意客がいて顧客リストを持っております。新たな販路の確保は必要と考えますので、関係機関と連携して支援していきたいと思っております。</li> <li>・評価いただきありがとうございます。勉強会・現地研修会は今後も継続していきます。</li> </ul>

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
		<p>次化などの積極的導入など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動項目に実需者とのマッチング支援とありましたが、個人的に生産する上で重要なのは、販売先（需要者）がある、又は、それに即した品物を供給出来るかだと思っており、マッチング支援は、非常に重要だと思いました。</li> <li>・若手生産者の技術力向上を図るとともに意識醸成を促しており、産地維持のための活動が行われたと思います。今後も継続的な取組が必要と考えます。</li> <li>・りんご生産者の後継者6名に対する活動支援については、技術勉強会・現地ほ場視察研修会の成果と実需者とのマッチング成立など顕著な成果があったと思います。</li> <li>・りんごの生産者は特に高齢化が進んでいると思われるので、横の繋がりを増やす取組を今後も継続してほしいと思います。また、コロナ禍だからこそ、地元の飲食店やお菓子業者等との新たな繋がりをつくる活動が必要と強く感じております。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題対象者の多くが、飲食店や菓子店を顧客として持っています。従来からの得意客に加えて新たな販路の確保は必要と考えますので、関係機関と連携して支援していきたいと思っております。</li> </ul>
<p>検討課題4 （新たな取組の定着による持続可能なカーネーション産地の実現）について</p>	<p>4.6</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画も目標も最適。</li> <li>・野菜と同じように、産地や生産者の分かる花というものを消費者に植えつけて欲しいと思った。母の日だけでないカーネーションの魅力伝えてほしい。</li> <li>・花卉生産の効率的な害虫防除と施設温度管理の技術導入の取組により、労力・経費軽減、導入戸数増加の成果を上げています。また、産地表示販売の実証支援により地域特産品の盛り上げ機運も高まりました。今後は、機会を捉えての技術指導等を期待します。</li> <li>・上位計画に基づいた「普及指導計画」となっている。また、「プロジェクト課題」については、地域に密着した課題を的確に捉えており、効果の指標が具体的になっている。</li> <li>・花の産地化としては、産地表示を取り入れるなど、大きく評価できる。今後は、地域が一体的に取り組み、産地表示だけでなく、天敵活用などサステナブルな育成なども同時にPRすることで、ブランド力の向上が期待される。</li> <li>・本品目に限らず産地表示や生産者表示は、生産者側も意識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな生産技術については、計画期間中に解決できなかった課題への対応や技術情報の提供を続け、地域に適応した技術となるよう、産地への支援を継続します。また、これまで支援を行った産地PR・産地表示販売について成果と課題を見直し、今後の取組の方向性について共通認識を持てるよう、産地や関係機関と調整を図りたいと考えております。一連の活動で得られた関係者間の繋がりを生かし、地域内の取組が発展できるよう、今後も活動の提案を行っていきます。</li> </ul>

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
		<p>向上、技術向上に繋がる取組だと思いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種活動により農家や生花店、関係機関の繋がりを創出しており、プロジェクト終了後も取組が定着し、持続・発展していくと思われま。</li> <li>・名取市のカーネーション生産組合については、新たな生産技術（IPM等）の導入支援や産地表示制度の導入支援等について大きな成果があったものと思います。地域の特産品を盛り上げていこうとする機運が生じていることも成果だと思えます。</li> <li>・IPMの導入による化学合成農薬に頼らない取組は高付加価値商品としての展開が可能となるので新たな特産品の開発に期待しております。</li> </ul>	
令和5年度普及指導計画（案）について	4.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続課題の最終段階と新規課題の設定も評価する。</li> <li>・特に4番について、持続可能な計画か（10年後の法人を見据えて）良く検討することが必要。また、整備する際の「負担ゼロ」が本当か、どこまでがゼロなのかということをきちんと話してから進めるべき。</li> <li>・管内の地域課題等を的確に捉え、普及指導計画（案）を作成されています。</li> <li>・プロジェクトの対象者だけでなく、地域全体に活動内容と効果を普及する必要がある。また、プロジェクト内容の収支も効果の指標に加える必要がある。</li> <li>・ほ場整備の新規地区として計画している小山・田沢地区の営農計画に関する助言・指導についてもよろしく願います。</li> <li>・新規課題、継続課題とともに、目標や活動内容等が適切に設定されていると考えます。</li> <li>・令和5年度普及指導計画の新規プロジェクト2件を含む課題および支援活動については、明確に整理されており現実に即した計画だと思えます。</li> <li>・普及活動方針やプロジェクト課題・目標の設定など、今後進むべき方向性が明確となっており、県内一の園芸産地を維持・発展させるためには普及センターの地道な活動が必</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や農業者が抱えている課題の把握に努めながら、関係機関との連携を図り、計画作成を行います。</li> <li>・プロジェクト活動で得られた成果は、講習会、普及センターだより、ホームページなどを活用し、情報発信に努めていきます。</li> </ul>

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
		要不可欠であると改めて実感しました。	
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつもありがとうございます。</li> <li>・各プロジェクトにおいて、アンケート等で対象者の意見が聴取できれば、より詳細に成果や改善点を把握できたのではないかと思います。</li> <li>・情報共有し連携強化して活動支援に取り組みますのでよろしく願いいたします。</li> <li>・これからの農業に関する相談案件があった場合はご連絡させていただきます。また、会議の中で発言させていただきましたが、これからも互理農業改良普及センターと商工会が連携し、お互いの強みをかけ合わせた取組が互理郡内の相乗効果を生み出すと考えておりますので、引き続き、どうぞよろしくお願い致します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・御助言ありがとうございます。いただいた御意見を次年度の普及活動に生かしていきます。</li> <li>・今後とも、関係機関と情報共有を図りながら、連携した支援に努めていきます。</li> </ul>